社団法人
海外と文化を交流する会

（社）海外と文化を交流する会会報
2011 年 6 月発行（４カ月１回発行）
第 47 号

”知と心”の繋がりに文化の原点を求めて

●日本を理解し日本で学ぶ留学生への支援
●貧しい国々での医療活動を支援
●各国大使館との協力などによる文化講演会など

麻田鷹司（ASADA　Takashi）　深山の滝（Cascade in Vista）1976 年作 73cm×50cm。この日本画は、日本と豪州との交流のため、海外と文化を交流する会が依頼して作画したもの。1977 年寄贈。現在は豪州ヴィクトリア州メルボルンのナショナルギャラリーに所蔵。麻田は 1928 年京都市に生れる。本名は昂。父は日本画家の麻田辨次。1949 年、京都市立絵画専門学校日本画科卒業。在学中、第 1 回創造美術展に「鷹司」の画号で入選。1951 年、創造美術の準会員。同年、新制作協会日本画部に移り、その会員。モダニズムの絵画表現をこなした上で、岩絵具の質感や金銀箔を活用した写実的風景画で人気を博した。1967 年、法隆寺金堂再現模写事業に従事。1970 年より武蔵野美術大学教授。1974 年創画会会員。1987 年没。

随 筆 ・寄 稿

■新会長就任のご挨拶

大谷俊介（社）海外と文化を交流する会会長

今年度から新しく会長となった大谷俊介です。2011 年 5 月 28 日の当会の理事会と総会においてジョージ・ギッシュ氏を引き継ぎ新会長に推挙され就任しました。

実は数年前にも会長就任を打診されたことがありましたが、その時は現役の本業が忙しく、体調も勝れなかったためお断りしたのです。代りにギッシュ氏が会長になり当会の活動を立派に維持して下さいました。名会長でした。ところが最近になってギッシュ氏は会長職以外の仕事が忙しくなり、しかもアメリカとの往復回数も増えるとのことで、できれば会長を辞任し私と交代したいと希望されたのです。私の方は幸いにして体調が快復し、本業の職務からも引退したので、これから多少の時間的余裕がもてそうであり、今年度から当会の発展に協力、尽力するため会長就任を引き受けたのです。

今年 3 月に起った東日本大震災とそれに続く福島の原子力発電所の大事故のため、日本は大変な苦難に直面しております。会員諸兄姉およびご関係の方はいかがでしょうか。もし被災が及んでいるとすればここにあらためてお見舞いを申し上げます。

これからの日本は、政治、行政の建て直しと経済面での復旧、復興はもちろんのこと、人心面での立ち直りと新たな士気の充実と高揚が求められています。そして、今世界中が日本を注目しています。その中で、これまでにも増して香り高い日本の文化を醸成し、それを世界に見せることが必要です。このような状況のもとで私たちの会は何をなすべきでしょうか。その答えはひと通りではなくいろいろな可能性があると想います。

私たちの会は小さな組織ながらも、国際交流において豊かな活動実績をもつ伝統に満ちた老舗の社団法人であり、国内外から価値ある団体として認められています。そして、暖かく理解して下さる多くの会員に支えられています。私はその会員の人たちと相談しながらこれからの会のあり方と活動を考えていくつもりです。

そしてご意見を汲み上げながら具体的行動に移ります。

まずはじめに私を支えて下さる会の執行部の役員構成を一部決めました。専務理事には当会の顔である松岡裕子氏に留任していただきます。そして、実務を担当する常務理事として以下の 3 名を指名します。それは、ジョージ・ギッシュ氏（外交担当）、鮫島宗明氏（企画担当）、中野真逸郎氏（広報担当）です。また、これに企画実行委員の数名が加わり、今後の会の活動を考え実行していくことになります。その他の理事や顧問団の構成も新しい体制のもとで見直すことになるでしょう。

以上で会長就任の弁を終えることにしますが、これからは私を含む執行部の考えを会員の

皆さま宛にたえず発信していくつもりです。そして、これから 2,3 年かけて新しい会の形がはっきりと見えるようにしていきたいと考えております。

皆さまの暖かいご支援をお願い申し上げます。（2011 年 6 月 27 日記）

■「海外と文化を交流する会」の心を振り返って見る

ジョージ W. ギッシュ Jr.（社）海外と文化を交流する会 前会長

会の創立以来、「文化」という概念は人間の生活と価値観を中心的に捉えました。英語の名称に創立者である松岡朝女史の高い志が現されている。それは、“Culture Appreciation and Interchange”という表現を直訳すると「文化の真価を理解しそしてそれをありがたく評価しながら各々の文化を互いに交換する」という意味になります。

当初の 1968 年から様々な形でこの精神が展開されました。数年間外務省と京都新聞などの応援があり、私が関わり始めたころ未だ銀座八丁目にある京都新聞の東京支社で毎月の活動企画会が開かれました。その時から在日留学生に対する奨励金支援や海外での医療活動の援助などが行われました。その後、大きな転換期を迎えることになりました。

モノよりもココロの交流を大事にされた室井鐵衛先生が会長になりました。そして先生の熱心な指導力によって、私たちが大きな応援者から離れて、独立することとなりました。しかし、新しい課題が持ち上がりました。1977 年に朝女史の並々ならぬ働きによって、オーストラリアに贈呈された 25 点の現代日本画が行方不明になりました。しかし、数名の努力によって、少しずつその所在が判ってきました。

その後、室井先生を補助する意味でしばらく先生に代わって私が会長を務めるようになり、そして、多くの人の尽力によって、幸いすべての作品が無事であることが判明され、すばらしい展示会がメルボンにあるヴィクトリア州立州議会堂の Queen’s Hall で 25 点の展示会が開かれました。これからも、「海外と文化を交流する」無限の可能性が開かれる展望が見えてきました。

今後も室井先生と当会の精神が続いていくことを祈っています。つぎの会長に、優秀な観察力と豊かな経験を待たれる大谷俊介先生にバトンタッチが無事に出来ましたことを感謝しています。大谷教授と松岡裕子専務理事の指導の下で、皆さまのココロとカラダを大事にすることを願っています。

■室井鐵衛名誉会長を偲んで

松岡裕子（社）海外と文化を交流する会専務理事

先生が４月５日にお亡くなりになって、もうお会いできないのだと思うと、寂しさひとしおです。お名残り惜しい気持ちは日を経た今も、変わることがありません。「松岡さん、僕はね――こう思うのですよ」で始まる温かい穏やかなお声が、今も耳元に懐かしく聞こえてくるのです。

乃木坂の先生のオフィスに理事就任のお願いに伺ったのは、23 年前のことでした。「先生のお玄関に置かれている赤ん坊が、すくすくと大人に育つまで見捨てないでいてください」と可笑しなお願いをしてきたことが思い出されます。その約束通り、先生は当会の理事、常務理事、会長、名誉会長と実に 23 年もの間、会を温かく導き、守ってくださったのでした。それこそ、一から十まで心を割ってご相談でき、生きるべき姿勢、進むべき道を身をもって示されたのでした。そのような方に出会えたのは、本当に幸せなことでした。会が危機に瀕するという紆余曲折の日々もありましたが、先生の水先案内のお陰で舵を取り荒波を乗り越えられたのは、心から信頼できる方の案内があったからこそ出来たことでした。

故・室井鐵衛元会長

先生をたとえるなら、音を立てずにゆったりと深く流れる大陸の大河のような方だと思います。今の日本で、なかなかお見かけ出来ない懐の広い、それも先の先を見通す確たる心眼を持たれた素晴らしい日本人でした。「直ぐに結果を見ようと急いではいけない。地道に確実に歩いて行くこと」が先生の持論でした。人を疑わずむしろ信じ、温かく包む方でしたから、即見抜く目を持っていた留学生たちに先生は慕われ尊敬されていました。

寒い 12 月のクリスマスの夕刻のことでした。80 歳を過ぎた先生が電車を乗り継いで、「美味しいので一つ」とケーキの箱を大事に抱えて、届けに見えたことがありました。あまりにも意外なことでびっくりしてしまい、まともなお礼の言葉も浮かびませんでした。お世話になっているのはこちらの方なのにです。今になって思うことですが、励まして下さろうとしたのでしょう。そのように決して偉ぶらない、人に優しい先生でした。思い出す度に、懐かしさで胸がいっぱいになってくる、そういう方でいらっしゃいました。

老若男女を問わず、このような先生の真髄に触れることが出来た者の心に、先生は爽やかな風となって、記憶となっていつまでも生き続けていくことでしょう。

■「お別れの会」に出席して

戦後の日本に Marketing を初めて紹介したのは室井先生だそうです。Marketing を学ぶ学生で室井先生を知らない人はもぐりであるとまで言われています。

その先生の「お別れの会」が５月 17 日に青山ダイヤモンド・ホールにて宣伝会議主催の下に執り行われました。「お別れの会」には開始時間前から既に長蛇の列が出来ていました。

会場には先生の生涯を物語る数々の写真が飾られ、当会からの写真、愛犬アーサー君の写真、お描きになった絵画群、たくさんの著書が並べられた、素敵なしつらえの会場でした。和やかな歓談のグループがあちこちに見られて、先生を名誉会長に仰ぐ「宣伝会議」の実に心のこもった「お別れの会」でした。

■はやぶさ　プログラムディレクタ　川口教授に学ぶ原発クライシス

松岡恒太郎　(社)海外と文化を交流する会理事

興奮さめやらず、会場をでても、地に足がつかずふわふわしている感じ、目から鱗とはまさにこのことでした。ＧＷの最終日、東京駅ではやぶさ　川口教授の講演会に参加しました。何冊か氏の著書はでています。

本に書かれていることが 80%かも知れない。でも表情、口調、プロジェクトへの思いが５ｍも離れていない距離でバンバン胸に響いてくる。そんな感動を味わうことができました。はやぶさの話題に、原発クライシスも織り交ぜられていました。

メッセージは、

１．透明性の確立

２．独自の技術の重要性

だと感じました。

ではまず、１．について述べてみます。

はやぶさが投下したカプセルを回収する際、ＪＡＸＡ内ではヘリの搭乗人数の制限もあるので、日本人でスタッフを固めたいという話が持ち上がったそうです。オーストラリアの砂漠の砂を入れたと言われないためにもフェアな証人として日本人以外の人も搭乗させることを氏が決断したそうです。

そこで原発についても、氏の主張は「つまり何をやっているのか？と言われない為にも全世界の英知をこの原発クライシスに集結させよ」ということでした。

わたしはこう思います。

”そんなことをしたら、技術立国が泣く”ではなく、”全世界の英知を結集して対応せずに、後から後悔したら、それこそ泣きっ面にハチだ”と。

２．については、こうです。

独自技術がどれだけ大切かということにつきます。はやぶさのケース、幾度となくピンチに見舞われます。そのほとんどが部品などの故障によるものだったようですが、だいたい故障する部品は、自主開発でないもの、つまり海外から輸入したものに多発したそうです。

今回の原発クライシスについて、私はこう考えます。

はやぶさは世界初の偉業をいくつも確立しました。他国がいまだかつてトライしたことがないことをいくつも乗り越えてこの輝かしい実績が生まれました。

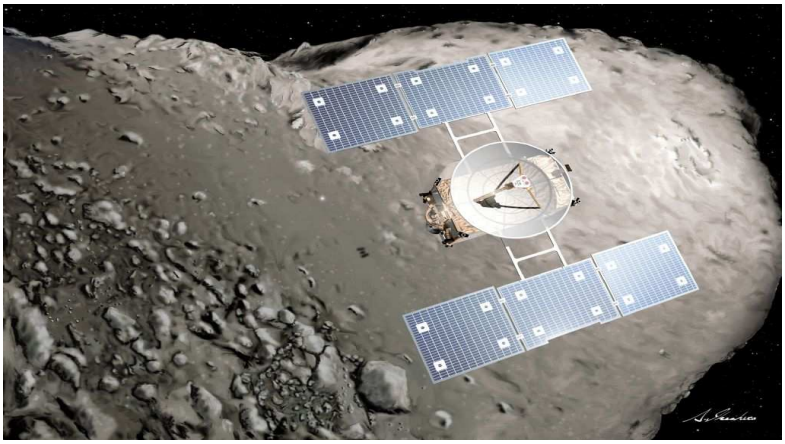
福島原発は元をただせばＧＥ設計。これを日本の技術で作りあげたわけです。ＧＥは米国です。設計上津波、地震のことは多少は考えたのかも知れません。しかし心底日本人の手で、自分の身になって考え抜いたフィールセーフ思想ではない。安全だ、問題ないと米国から言われ、今回の事故が起きるまで自分の手で、身になって安全対策を考えてこなかった、のではないかと。

独自技術という点でおまけです。

★ターゲットマーカーについて★

まずはこれをご覧ください。

http://spaceinfo.jaxa.jp/hayabusa/movie/interview/sawai01.html
PC で検索の場合は、
JAXA　はやぶさ物語　ターゲットマーカー
と打ち込んでください。
これも当然独自技術です。特許は取らないそうです。取る＝公開だからです。米国からも教えろ、教えろとしつこいそうです。でも絶対公開しないと氏は言っていました。
小惑星イトカワはものすごいスピードで動いています。はやぶさは歩調を合わせます、そしてようやく着陸準備です。



イトカワ接近

こんな描写を考えました。
◆荒れ狂う大海（＝宇宙）に無鉄砲なサーファー（＝イトカワ）が波乗りを楽しんでいる
◆そこにラジコンヘリ（はやぶさ）を飛ばし、着陸する
そんな感じ。お互い動いていることを想像してみてください。このような動きの中での
1．マーカー投下
2．マーカー認識
3．マーカーを目印に着陸
どんなに大変か想像できますよね？　苦労に苦労を重ね、考え抜いた技術は強いです。

話はかなり飛躍しますが、やはり脱原発が日本の進むべき道ではないかと思うわけです。こんなにも人も美しい国土も傷ついてしまいました。誰になんと言われても今後のエネルギー政策として、脱原発、自然エネルギーの確立を国の根幹の１つとしてポリシーを持って歩むべきです。
脱原発を土台に All Japan 電機、化学、素材メーカーが、自然エネルギーの開発に再び本腰を入れる。そんなエネルギー政策の仕組み作りが急務です。原発技術は未だに、廃棄処理に目処が立たない上に何世代も子孫につけを回す、世界的にみると（解決の糸口が見えない）斜陽なエネルギー技術と認識したほうがいいと思っています。

23年度総会報告

■平成 23 年度　通常総会

2011（平成 23）年度、(社)海外と文化を交流する会総会は、下記のように開催されました。
日時：2011 年 5 月 28 日（土）　16：30～17：30
場所：中央区銀座　　銀座教会地下集会室

理事の改選

2011 年度は理事の改選です。
理事：浅野祐一郎、大谷俊介、ジョージ・W・ギッシュ、鮫島宗明、角谷多美子、中野真逸郎、北條ミチ子（新任）、本田朋子、松岡恒太郎、松岡裕子、松田洋子、山田悦弘
監事：角谷秀雄

ジョージ・ギッシュ会長が退き、新会長には大谷俊介常務理事が選ばれました。それに伴い、常務理事の任命がありました。
会長：大谷俊介
専務理事：松岡裕子
常務理事：ジョージ・W・ギッシュ（外交担当）
鮫島宗明（企画担当）
中野真逸郎（広報担当）

平成 22 年度事業報告（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

１．日豪交流における招聘計画（定款 4 条 2 項による）
Hamilton Museum で 2012 年 5 月、6 月に行われる 50 周年日本画展への協賛要請を受け、これを実現すべく、準備を始めた。

２．“つどい”（定款 4 条 2 項による）
Australia 及び　New Zealand に当会が寄贈した日本画について学ぶことを通して会員相互の理解と親睦を深めるべく、計画中である。

３．Charity Concert の件(定款 4 条 6 項による)
音楽会（定款 4 条 6 項による）水谷川優子チェロ・コンサート開催のための準備を始める。

４．一般社団法人の認定申請書作成の件
申請書作成、提出済み。現在審査中。

５．会報　(定款第 4 条 6 項による)
年 3 回発行。

以　上

平成 22 年度収支決算書 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日　　単位:円

科　　目	予算	決算	差異	備　考
Ⅰ 事業活動収入				
① 基本財産運用収入	**0**	**0**	**0**	
基本財産運用収入	0	0	0	
② 特定資産運用収入	**300**	**560**	**▲ 260**	
特定資産運用収入	300	560	▲ 260	
③ 会費収入	**500,000**	**485,000**	**15,000**	内預かり金10名
正会員会費収入	450,000	485,000	▲ 35,000	1 万円 47 名　5 千円 3 名
賛助会員会費収入	50,000	0	50,000	
④ 事業収入	**2,150,000**	**196,052**	**1,953,948**	
つどい	150,000	47,052	102,948	会費 36000　補助 11052
国際交流事業	1,000,000	0	1,000,000	
留学生支援	0	0	0	
オセアニア美術家招聘事業収入	1,000,000	0	1,000,000	
会報発行	0	100,000	▲ 100,000	活動費として振替
講演会・音楽会	0	49,000	▲ 49,000	4月 15 日コンサート預り金
東京ハルモニア室内オーケストラ支援収入	0	0	0	
その他	0	0	0	
⑤ 補助金等収入	**100,000**	**0**	**100,000**	
国庫補助金	0	0	0	
地方公共団体補助金	0	0	0	
民間補助金収入	0	0	0	
受託金収入	0	0	0	
国庫助成金収入	50,000	0	50,000	
地方公共団体助金収入	50,000	0	50,000	
民間助成金収入	0	0	0	
⑥ 寄付金収入	**50,000**	**600,000**	**▲ 550,000**	
寄付金収入	50,000	600,000	▲ 550,000	2 口
募金収入	0	0	0	
⑦ 雑収入	**700**	**488**	**212**	
受取利息収入	500	488	12	
雑収入	200	0	200	
収入合計	**2,801,000**	**1,282,100**	**1,518,900**	
Ⅱ事業活動支出				
① 事業費支出	**2,751,000**	**217,829**	**2,533,171**	
つどい支出	180,000	47,052	132,948	
国際交流事業支出	500,000	3,185	496,815	
留学生支援支出	500,000	0	500,000	

オセアニア美術家招聘支出	1,000,000	0	1,000,000	
会報発行支出	146,000	111,070	34,930	
講演会・音楽会支出	400,000	31,522	368,478	
東京ハルモニア室内オーケストラ支援支出	25,000	25,000	0	
その他	0	0	0	
② 管理費支出	**635,000**	**737,300**	**▲ 102,300**	
法人税支出	70,000	70,000	0	
役員報酬支出	0	0	0	
諸謝金支出	230,000	218,805	11,195	一般法人申請のため超過
会議費支出	60,000	49,236	10,764	
交通費支出	20,000	38,080	▲ 18,080	
通信費支出	80,000	93,460	▲ 13,460	
事務所費支出	125,000	195,619	▲ 70,619	
家賃	0	0	0	
光熱費	20,000	20,000	0	
図書印刷費	5,000	610	4,390	
消耗品費	30,000	126,191	▲ 96,191	パソコン買替え 80, 080 円
H. P	70,000	48,818	21,182	
前払金支出	0	0	0	
寄付金支出	0	0	0	
雑支出	50,000	72,100	▲ 22,100	監査費、誤入金戻し
③ 他会計への繰入金支出	**0**	**100,000**	**▲ 100,000**	
会報会計への繰入金支出	0	100,000	▲ 100,000	
支　出　計	**3,386,000**	**1,055,129**		
Ⅲ　引当金支出				
① 引当金支出計	**1,000,000**	**1,000,000**	**0**	
引当金支出	1,000,000	1,000,000	0	
Ⅳ　予備費支出				
① 予備費支出計	**50,000**	**0**	**50,000**	
予備費支出	50,000	0	50,000	
支出合計	**4,436,000**	**2,055,129**		
当期収支差額	**▲ 1,635,000**	**▲ 773,029**		
当期収支差額	▲ 1,635,000	▲ 773,029		
前期繰越収支差額	2,391,027	2,391,027	0	
次期繰越収支差額	**756,027**	**1,617,998**		

平成 23 年度事業計画（2011 年４月１日～2012 年３月 31 日）

１．「つどい」は、３月 26 日に予定していた日豪ＥＰＡ（経済連合協定）勉強会を大震災のために順延していましたが、７月 16 日（土）に実施いたします。

さらに、会員の交流促進ほかのために「つどい」を企画します。

２．「国際交流事業」として、豪州ヴィクトリア州ハミルトン美術館で 2012 年５月 9 日～６月 24 日に 50 周年記念日本画展が開催されるので、当会より全面的に協力します。その協働の打ち合わせとして人員を３名派遣いたします。
ほかにオセアニア諸国との文化交流をいたします。

３．「留学生交換の支援」は、国際交流事業とも重なりますが、企画していきます。

４．「会報」は年に３～４回の発行をします。

５．「水谷川優子チェロ・チャリティコンサート」の実施を企画します。

平成 23 年度収支予算書（2011 年４月１日～2012 年 3 月 31 日）　　単位:円

科　目	予算	前年度予算	増 減	備　考
Ⅰ事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産収入	**300**	**300**		
基本財産収入	300	300		
②正会員会費収入	**500,000**	**500,000**	**0**	
正会員会費	450,000	450,000	**0**	10000×44+5000×2
賛助会員会費	50,000	50,000	**0**	50000×1
③補助金等収入	**1,000,000**	**100,000**	**900,000**	国際交流事業のため
補助金収入	1,000,000	100,000	900,000	
④事業収入	**1,500,000**	**1,150,000**	**350,000**	
つどい	100,000	150,000	▲ 50,000	1000×50×2他
国際交流事業	400,000	0	400,000	基金取り崩し
留学生交換の支援	0	0	0	
オセアニア美術家招聘議業	0	0	0	基金取り崩し
会報発行	0	0	0	
講演会･音楽会	1,000,000	1,000,000	0	
東京ハルモニア室内オーケストラ支援	0	0	0	
その他	0	0	0	
⑤雑収入	**51,000**	**50,700**	300	
寄付金	50,000	50,000	0	
雑収入	1,000	700	300	預金利息
事業活動収入計	**3,051,300**	**1,801,000**	**1,250,300**	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	**2,096,000**	**1,751,000**	**295,000**	
つどい	100,000	180,000	▲ 80,000	２０００×５０×２
国際交流事業	1,400,000	500,000	900,000	
留学生交換の支援	0	500,000	▲ 500,000	
オセアニア美術家招聘事業	0	0	0	渡豪費　1名分

会報発行	146,000	146,000	0	年3、4回発行
講演会・音楽会	400,000	400,000	0	会場費、お車代ほか
東京ハルモニア室内	0	25,000	▲ 25,000	隔年
オーケストラ支援（会費）				
その他	50,000	0	0	
②管理費支出	**1,195,000**	**635,000**	**560,000**	
法人都民税	70,000	70,000	0	
役員報酬支出	0	0	0	
諸謝金支出	300,000	230,000	70,000	
会議費支出	50,000	60,000	▲ 10,000	
交通費支出	40,000	20,000	20,000	
通信費支出	80,000	80,000	0	
事務所費支出	105,000	125,000	▲ 20,000	
家賃	0	0	0	
水道光熱費	20,000	20,000	0	
図書・印刷費	5,000	5,000	0	
消耗品費	30,000	30,000	0	
H.P 維持費	50,000	70,000	▲ 20,000	
雑支出	550,000	50,000	500,000	
寄付金	500,000	―	500,000	東日本大震災支援
雑費	50,000	50,000	0	会計監査他
他会計へ振替振替	0	―	0	
他会計へ振替	0	―	0	
事業活動支出計	**3,291,000**	**2,386,000**	**855,000**	
Ⅱ 引当金	**1,000,000**	**1,000,000**	**0**	オセアニア美術家招聘基金
Ⅲ 予備費	**50,000**	**50,000**	**0**	
当期支出合計	**4,341,000**	**3,436,000**	**905,000**	
当期収支差額	**▲ 1,289,700**	**▲ 635,000**	**▲ 1,924,700**	
前期繰越収支差額	2,391,027	4,016,930	▲ 1,625,903	
次期繰越収支差額	**1,101,327**	**3,381,930**	**▲ 2,280,603**	

以上

お知らせ＆報告

■「海外と文化を交流する会」7 月定例会と「つどい」

会長　大谷俊介

梅雨の候、会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

隔月で開催している定例会ですが、今回は、豪州大使館から貿易担当の参事官をお迎えし日豪 EPA（経済連携協定：Economic Partnership Agreement）についての最近の動きについてのお話を伺うことになりました。

当会が、3 月 12 日に東日本大震災で震災被害を受けた新潟県十日町のオーストラリア・ハウス再建のために、いち早く義捐金を送ったことで、当会と豪州との信頼関係はさらに深まりました。

せっかくの機会ですので、7 月の定例会は『つどい』として開催し、会員以外の方にもお越しいただくことが出来るようにいたしました。ご関心をお持ちの方々にお声をかけて頂ければ有難く存じます。

『つどい』特別企画

日時：　7 月 16 日（土）　17：00～18：30
場所：　銀座教会、地下集会室（中央区銀座 4-2-1、Tel.03-3561-2910
　　地下鉄「銀座」C8 出口、外堀通り）
会場費：　1000 円（会員は無料です）
講師：　Ms Kylie Oakes-Ati（豪州大使館　FTA 担当参事官）
議題：　日豪 EPA 交渉を巡る最近の動き（逐次通訳付き）

06 年末から日本とオーストラリアの間で交渉が進められているＥＰＡ（＝経済連携協定）。消費者にはどのような変化があるのか。また、日本の農業や畜産業と工業国としての利益を両立できるのか。

日豪の輸出入総額は現在約 4 兆円。オーストラリアの対日輸出品目は、石炭、鉄鉱石、天然ガスなどの天然資源が中心で、その他に牛肉や小麦などの農畜産物がある。日本の産業界は、エネルギー資源の安定調達という観点から、日豪 EPA の締結に強く期待する。日本にとって農業大国豪州との EPA を実現させるには……。

会員の皆さま、ぜひご参加ください。お問い合わせとお申し込みは、(社)海外と文化を交流する会事務局まで。ご参加の方は jimukyoku@kaigai-bunka.org までメールか、あるいは 03-3370-7654まで FAX をどうぞ。

■「感動のチェロとパイプオルガンの夕べ」と義捐金贈呈

2011 年４月 15 日（金）の「海外と文化を交流する会チャリティコンサート」は、チェロ　水谷川優子、オルガン　藤森いづみのおふたりの演奏で開催されました。霊南坂

教会にはバッハ「アリオーゾ」やフォーレ「ピエイエズ（レクイエムより）」などが奏でられ、約 230 人の聴衆は、まさに感動の夕べをすごすことができました。
　このチャリティコンサートでは、売り上げの一部と当日の聴衆および霊南坂教会、バザー出店の方々からご寄付くださった東日本大震災への義捐金に充てることとしました。義捐金は東日本大震災で震災被害を受けた新潟県十日町のオーストラリア・ハウス再建のために贈りました。

　オーストラリア大使館広報文化部、キアラン・チェストナットさんをとおして贈呈。チェストナット氏より御礼の挨拶をいただきました。

■「感動のチェロとパイプオルガン」を聴いて

角谷怜奈(社)海外と文化を交流する会会友

　水谷川優子さんは各曲にまつわるエピソードを交えて演奏下さいましたので、一曲一曲、より親しんで聴くことが出来ました。
　柔らかく、とても深みのあるチェロの音色を、最大限に表現できる方だという印象を受けました。
　チェロとオルガンのコンビネーションがここまで心地のよいものだとは知らず、お二人の温かさ溢れる演奏会を満喫させて頂きました。

■会員の募集

海外と文化を交流する会は、すでに 43 年です。ここまで、ずっと続いてきたのは、会員の皆さまのバックアップがあるからです。御礼申し上げます。
会としてさらにボランタリーでの有意義な活動をしていきたい、そんな願いをこめて、常に企画を検討しています。
幸いに良質な会員の方々ばかりです。さらなる発展を期待し、新会員をご推薦ください。自薦の場合でも、理事会で面接いたします。事務局までファクスあるいは e-mail でお問い合せください。

■会費納入のお願い

2011 年度の年会費納入をお願いいたします。さらに 2010 年度 2009 年度の年会費未納の方は、ぜひともご納入ください。高く評価されている当会の活動は、皆さまのご支援あってこそなのです。
　将来、日豪両国の芸術専攻生の教育交流にも発展させたいと考えています。オーストラリアやニュージーランドに寄贈日本画の里帰り展も実現したいと思います。ぜひご支援ください。

郵便振替　　00130-2-366249　社団法人海外と文化を交流する会
銀行振込　　三菱東京 UFJ 銀行渋谷支店（普）2266599　海外と文化を交流する会

会費 10,000 円（正会員）　5,000 円（特別賛助会員）　3,000 円（学生会員）

海外と文化を交流する会事務局
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1-27-6　ﾊﾟｲﾝﾋﾙ内
TEL&FAX　03-3370-7654　　e-mail:jimukyoku@kaigai-bunka.org
http://www.kaigai-bunka.org